

# 誰か真相を教えてください！

## 空港にある謎のローカル道路について

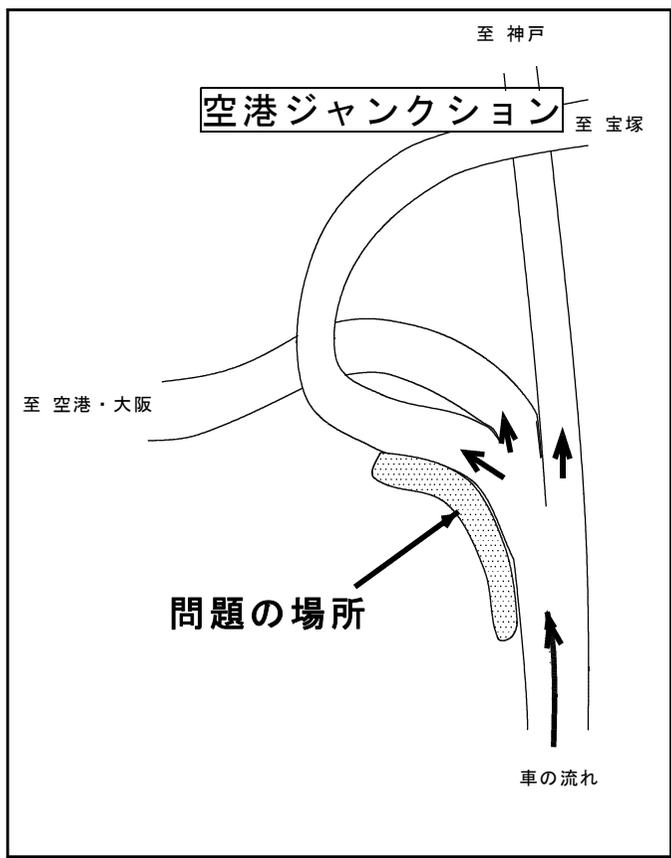
浮沈管

どう考えても、理解できない道路がある。だれか真相を教えてください。

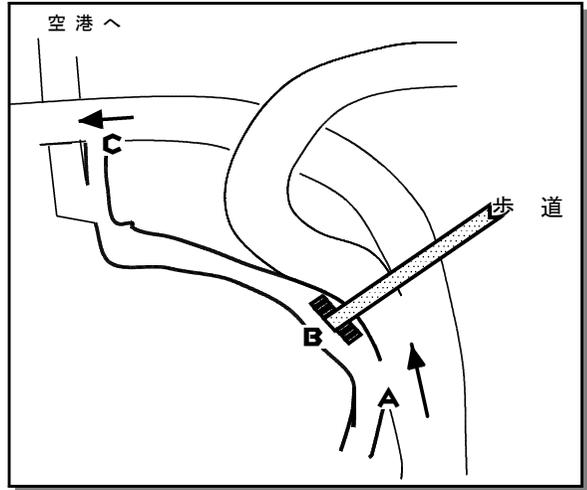
それは中央環状線で千里方面から宝塚方面へ向かう途中の大阪空港ジャンクションにある。神戸方面への道が分かれたあたりで道路の左側に注目してほしい。ガードレールの向こうに「歩道」がある。この歩道自体は、ジャンクション以前から続いている普通の歩道だ。さらに先には歩道橋の昇り口もある。ここまではどう見ても「歩道」なのだ。

だが不思議なことに、この歩道橋の昇り口あたりから「歩道」はいつの間にか「車道」に変わっていく。歩道橋の支柱の下には車が常時駐車されているし車の往来もあるのだ。

何度か見ているうちに、歩道橋の手前で、ガードレールがいったん途切れ、中央環状線から車が入り入れられるようにもなっていることもわかった（次ページ図のA）。



ためしに車で乗り入れてみるとおもしろい。ガードレールで守られた車1台分の狭い道幅、中央環状線と反対側は民家の塀が並ぶ。こんなところ走ってええんかいな？という気分になる。歩道橋（B）をすぎると道幅がいくぶん広くなり、道路らしくなる。坂を下り、ラブホテルをすぎるとさらに道幅は広くなり、空港



への抜け道で有名なトンネルにつながる。そしてついに大阪池田線（阪神高速の側道）に出してしまうのだ（C）。

いまのように中央環状線側からこの不思議な道路に進入した場合（A→B→C）は大して困ることもない。問題は逆のケースだ。C側から進入した場合は、どんどん道幅が狭くなり、しかもいつの間にか歩道のような雰囲気となり、最終的には中央環状線へ、一方通行の逆向きの形で出てしまうのだ。これは恐ろしい。

「歩道」から、時速80km前後でとばしてくる中央環状線の車の間隙を縫って180度のUターンを敢行するか。それとも泣く泣くバックで狭い道に戻るか。昼間なら歩行者も多いことだろう。どちらにしても危険きわまりないことだ。

どういう経過でこのような歩道とも車道とも区別の付かない道路ができてしまったのだろうか。地域の住民はどのように考えているのだろうか。もし誰か真相を知っているなら教えてほしいものだ。